

営農ファイル

農産園芸部門

農作業メモ

早期水稲

(※植え付けは4月1日を基準にして記載しています。)

1.生育・水管理

中干し後は走水の後、間断灌水を行ってください。

穂肥は幼穂長1cm(出穂15~20日前)を目途に行ってください。

いもち病を確認したら速やかに防除してください。

2.畦畔のこまめな草刈徹底

雑草を水田内に残さず取り除いてください。

3.イネの交雑について

現在水田には、多種多様な水稲が植えられています。移植時期が同じで出穂期が重なれば交雑が起こり、コシヒカリの品質等に影響がでるのではないかとこの意見が組合員から寄せられました。基本的にイネは自家受粉しますので、他品種のイネとの交雑率は極端に低く、出荷用で作付けしているほ場では交雑について心配する必要はありません。但し、管理の悪いほ場は、隣の田への病害虫の発生源となるので、適正な管理を心がけてください。なお、出穂期に発生する雑穂(異株)は異種穀粒となります

ので、株元から抜き取りしてください。

ハウス胡瓜

日差しが強くなっているので、日中はハウス内の温度を極力下げ、きゅうりの消耗(蒸散)を減らす管理を行ってください。また、多回数灌水に努めてください。

病害虫の防除は、温度管理、湿度管理、草勢維持に努め病気の出にくい環境を作ることが大切です。合わせて、農薬防除ローテーションによる散布・ハウス内外の除草も行ってください。

きゅうり黄化えそ病(MYSV)の媒介虫のミナミキイロアザミウマが増加しています。防除の徹底及び、発症株の早期抜根の徹底、栽培終了後は早急に片付けを行い次作に備えた予防を行ってください。

トマト類

日中の直射日光により果実の日焼けが出る恐れがありますので、2重ビニールを利用し、日焼け防止をしてください。コナジラミの防除は収穫終了まで継続して行ってください。

併せて次年度作の準備も計画的に行いましょう。特に青枯れ、褐色根腐病等の土壌病害が発生した圃場については、必ず陽熱消毒や土壌還元消毒を行ってください。センチュウ対策も忘れずに行ってください。

イチゴ

収穫が終わった圃場は、速やかに株の処理を行い、土壌消毒の準備をしてください。来シーズンの為の大切な作業です。十分に陽熱消毒の期間がとれるように段取りをしてください。

また、土壌分析の早めの提出を行い、計

画的な施肥をしてください。

ブドウ

灰色カビ、晩腐などの病気はもちろんですが、高温・乾燥によりハダニやスリップスが発生しやすくなるため、注意してください。発生時期によっては加害する部位も違うようです。軸が黒くなったり、実に傷が入って商品価値が著しく低下します。適期での防除が必要です。また、果実肥大期のホライズン(DF)の使用は、花粉の溶解に十分に注意してください。

※縮果症対策

水廻りの摘房や過度な枝整理は、縮果症を招く為行わないでください。

キンカン

新梢の伸長を促進し、母枝の充実を図るため、最低15℃以上で管理してください。発芽後は、新梢の充実を図るため、昼温は25℃を目安に管理し、谷やサイドを開けて、温度が上がりすぎないように注意してください(30℃を超えると緑化前に花芽が上がつてきます)。

また、花の1ヶ月前までには除草剤等で雑草の除去や防除を徹底してください。(スリップスとカイガラムシ対策)

水管理は、根痛みしない程度にたっぷりかん水を行ってください。6月上旬から蒸し込みを行い、出蕾のピークを確認したら、温度を下げていきます。

出蕾したら10日程度で、開花します。この一番花の開花を6月25日頃になるよう目指して行ってください。

※開花期間中は、午前中の樹上灌水及び農薬散布は行わないでください。

営農積立貯金から出資金への振替処理の廃止について

例年、出資金の増資同意者の方につきましては、7月上旬に営農積立貯金より20%(最高10万円)を出資金へ振替処理を行って来ましたが、JAみやざき設立に伴い、出資増資手続きを統一することで決定しました。つきましては、今年度より営農積立貯金からの出資振替処理を廃止いたしますので、ご連絡いたします。尚、ご不明な点がございましたら、下記連絡先までお問い合わせください。

■ JAみやざき尾鈴地区本部 総務課 TEL 0983-27-1121 ■